

2025



レポート
Report

2024年世界自動車博物館会議 日本大会参加報告

日本自動車殿堂 研究・選考会議 議長

片山 光夫

世界自動車博物館会議（WFFMM）は、欧州と米国の自動車博物館連盟が歴史遺産である自動車への情熱を共有し、知識を交換することを目的として1989年に発足し、以降隔年で開催されている。2020年に、2024年の第16回会議の日本開催についてトヨタ博物館に打診があり、日本で開催の運びとなった。

日本には国立の自動車博物館がないため、日本国内14社の二輪及び四輪メーカーが参加し、今後WFFMMが日本でも開催されるように、文化庁の全国科学博物館協議会内にWFFMMの日本開催実行委員会を設置することになった。同時に日本自動車工業会の会員企業に上記実行委員会のメンバーになることとし、今回の会議の実施に当たっては国立科学博物館、名古屋市科学館とトヨタ産業技術記念館にも実行委員会のメンバーとなっていたこととなった。

そして今回の開催実行委員会は、いすゞ自動車、カワサキモータース、スズキ、SUBARU、ダイハツ

工業、トヨタ自動車、日産自動車、日野自動車、本田技研工業、マツダ、三菱自動車、三菱ふそうトラック・バス、ヤマハ発動機及びUDトラックから構成されることになった。

WFFMMの本会議は、2024年10月30日と31日の二日間、トヨタ博物館で開催された。

本会議ではWFFMMのペン会長の挨拶の後、実行委員長であるトヨタ博物館の布垣直昭館長が挨拶され、つづいて日本自動車殿堂の藤本隆宏会長の基調講演「なぜ日本で自動車産業が栄えたのか？」が行われた。

大会発表のテーマは「温故知新」で、以下のテーマで参加者による活発な発表と議論が行われた。

- 1) 海外での日本の旧車人気
- 2) 日本の自動車メーカーのヘリテージ活動
その他プログラムとして、

- 1) 事前ツアーが行われ、ホンダ、日産及びマツダ各社のコレクションホールの見学会が催された
- 2) ウェルカムパーティーは同じ名古屋のトヨタ産



トヨタ博物館 外観



トヨタ博物館 クルマ館 外観



トヨタ博物館 文化館 外観



トヨタ博物館 クルマ館3階。初代クラウンの後ろは「日本自動車殿堂コーナー」



クルマ館展示 ゾーン10-2 「経済成長と加速するモータリゼーション 1960s」



「日本自動車殿堂コーナー」を視察する筆者



開催挨拶 世界自動車博物館会議 Wim Van Roy氏



実行委員長挨拶 トヨタ博物館館長 布垣直昭氏